

Title	編集後記
Sub Title	
Author	宇尾野
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1961
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.54, No.11 (1961. 11)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19611101-0106

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

核実験並びにベルリンをめぐる東西の対立が激化している。核実験を真にやむを得ないものと考えらるなら、それは人類が核兵器を操向できずに核兵器に人類が操向され、また人類が政治を操向するのではなく、政治に人類がひきまわされていることを告白しているにすぎない。少数の政治家の失敗が人類を破滅においこむ戦争にしろよせされる時代は二〇世紀前半でおわりにした。

世界政治がフマニズムや自由について無自覚状態にある時アカデミーのみがその例外である筈はない。思想家が新時代の思想を創造することを忘れ、理論家も亦理論的不毛におち入って過去の追憶や古典の解釈に没頭している。歴史家に至っては全く問題意識を歴史の片隅におきわすれ翻訳に汲々としている。そのような精神的空白の時期を危機の時代と呼ぶ。この危機の時代は、すべての実践が空転する時期である。そのような空転の最大のものが戦争なのである。この号では青沼教授、速水、常盤絢子助教授のそれぞれの力作を、また渡辺助教授の資料、飯田鼎助教授の精力的な書評を頂くことができた。またむずかしい新刊紹介にも諸先生の御協力を賜わったことに深謝する。

(宇尾野)

昭和三十六年十一月一日 発行

◎三田学会雑誌 第五十四巻 第十一号

定価 九〇円(送料共)

東京都港区芝三田二丁目二番地

慶應義塾経済学会

編集兼 代表者 山本 登

電話三田(振)五一八一
振替口座番号 東京四四〇五六

印刷者 東京都港区芝三田豊岡町八番地
図書印刷株式会社

安倍七郎

半年予約購読料(送料共) 五四〇円
一年 " " 一〇八〇円

御希望の方は左記へ購読料を添え御申込み下さい。

東京都高輪局区内三田綱町一番地

発行所 慶應通信

振替口座番号 東京一五五四九七